

人と自然とこの地球、学びを社会のために

# 気象大学校

Meteorological College

## 気象大学校

〒277-0852  
千葉県柏市旭町 7-4-81  
TEL 04-7144-7185(代)  
URL <https://www.mc-jma.go.jp>



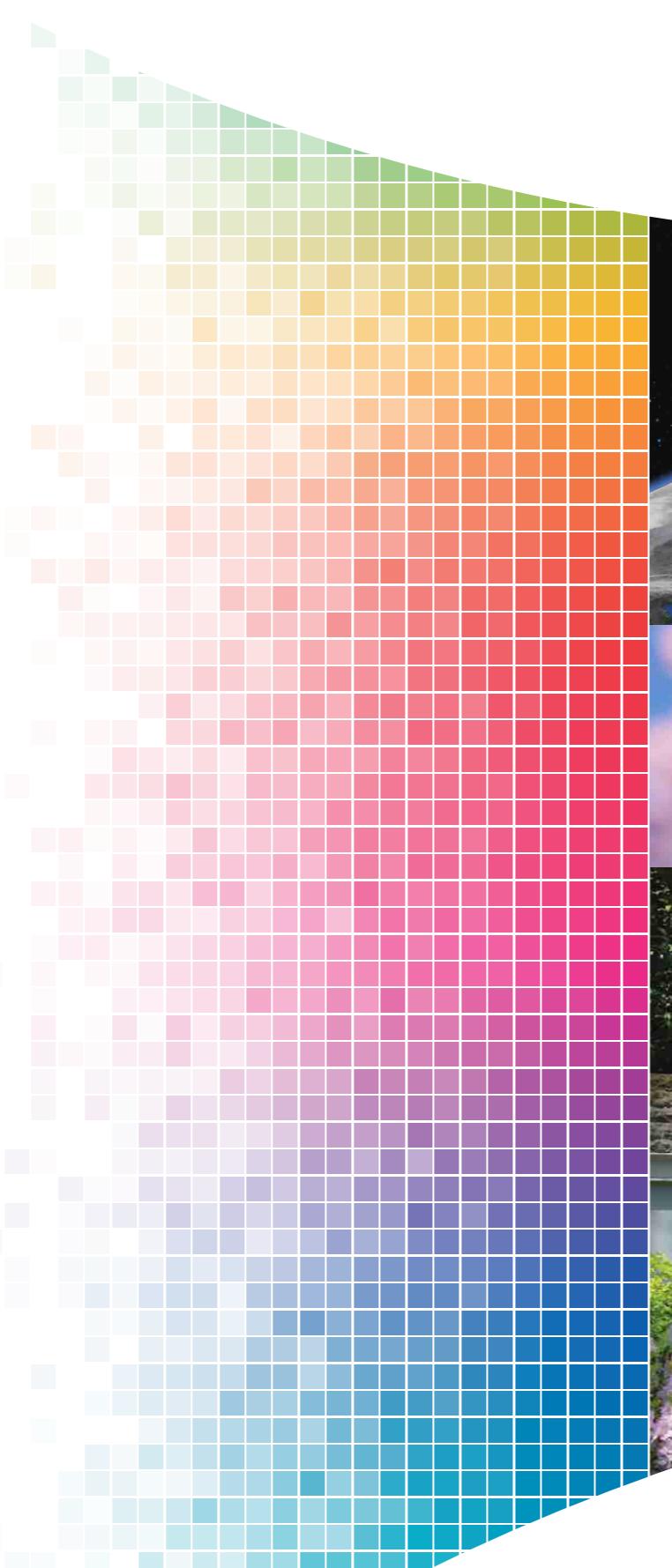
## 気象庁

〒105-8431  
東京都港区虎ノ門 3-6-9  
TEL 03-6758-3900(代)  
URL <https://www.jma.go.jp>



はれるん誕生 20 周年  
気象庁マスコットキャラクター  
はれるん

2025.6月発行

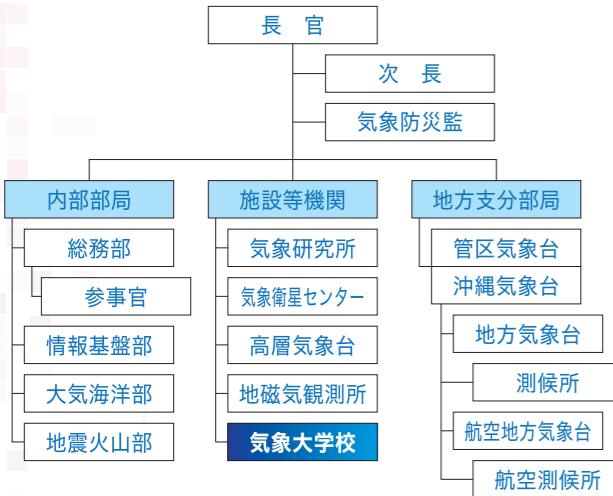


気象庁

# 気象大学校 は気象庁の中核となる職員を養成するための気象庁の機関です。

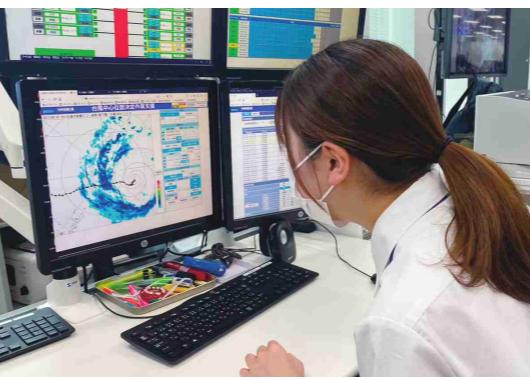
国家公務員気象大学校学生採用試験によって採用された学生は、気象に関する専門的知識、技術などについて4年間の教育を受けたのち、気象庁本庁又は全国各地の気象台などに配属され、観測、調査、予報、研究などの気象業務に従事します。

組織図



沿革

大正 11 年 (1922) 9月	中央気象台(現気象庁)附属測候技術官養成所設置
昭和 14 年 (1939) 10月	中央気象台附属気象技術官養成所と改称
18年 (1943) 4月	現在地(千葉県柏市 当時柏町)に移転
31年 (1956) 7月	中央気象台の気象庁昇格に伴い、気象庁研修所に改称
34年 (1959) 4月	2年制高等部の設置
37年 (1962) 4月	気象大学校に改称、2年制大学部の設置
39年 (1964) 4月	大学部が4年制となる
45年 (1970) 3月	図書館竣工
50年 (1975) 7月	寄宿舎(智明寮)竣工
62年 (1987) 6月	第一校舎竣工
63年 (1988) 8月	第二校舎(実験棟)竣工
平成元年 (1989) 3月	体育館竣工
4年 (1992) 3月	卒業生に対し、学位授与機構より学士(理学)の学位授与



## 校長挨拶

本校は、大正11年に中央気象台付属測候技術官養成所として発足して以来、昭和39年の4年制の大学校への改組を経て現在に至るまで百年以上の長きにわたり、気象庁の教育・研修機関として、業務の第一線で活躍する多くの卒業生を輩出してきました。その専門的な教育活動は高く評価され、令和5年度に人事院総裁賞を受賞しています。

気象庁は、気象・海洋や地震・火山などの自然現象を監視・予測し、的確な気象情報を提供することによって、自然災害の軽減、国民生活の向上、交通安全の確保、産業の発展などに貢献することを任務としています。この任務を果たすために、宇宙から地上、海上に至るまで、気象衛星、レーダー、アメダス、地震計、津波計、観測船などによって自然現象を常に監視し、スーパーコンピュータで高度な解析・予測を行っています。情報の改善のためには、自然現象に対する十分な知識とともに、先進的な観測・予測技術の研究・開発、システムの改善・高度化が必要です。さらに情報の発信にとどまらず、危険を伝える情報が人々の避難行動につながるように、常日頃から関係者と一体となった防災の取り組みを進め、人々の生活や社会経済活動において気象データが有効に活用されるようにしていく必要があります。

本校では、これらの業務を進めるうえで基礎となる、気象学、海洋学、地震学、火山学などの地球物理学を中心とした専門課程を修めるとともに、人文・社会科学、語学等の教養を身につけます。さらに実践的な演習、野外観測・職場体験などを通して、気象業務についての知識や防災についての理解を深め、業務の現場で必要な技術を身につけます。学生定員は60名で、一学年15名前後という少人数の学生に対して、各教官が丁寧な指導を行っています。また、構内には寄宿舎を備え、緑豊かなキャンパスでの課外活動も充実しています。

自然現象の探求や自然と人間・社会との関わりに興味を持ち、知識と技術を身につけたい、そして将来は気象業務を通じて社会に貢献したい。そんな意欲に満ちた皆さんの入学を心よりお待ちしています。

## Contents

施設案内 ..... P4～P5

カリキュラム ..... P6～P7

授業風景 ..... P8～P9

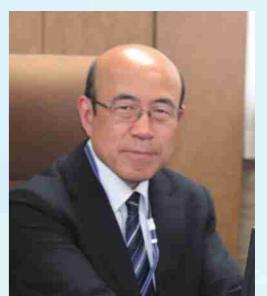
学校生活 ..... P10～P11

学校行事・課外活動 ..... P12～P13

卒業後の活躍 ..... P14

卒業生より ..... P15～P18

ご案内 ..... P19



気象大学校長  
尾崎 友亮



# Campus

ひとつの場所で、生活しながら、集中して学ぶ



## 第一校舎



活気のある学びの場

3F	教室、 気象資料閲覧教室 (KASHIWA 気象台)
2F	教官室、 情報処理室
1F	校長室、教頭室、 事務室、講師控室、 医務室、講堂等



### 3F 気象資料閲覧教室

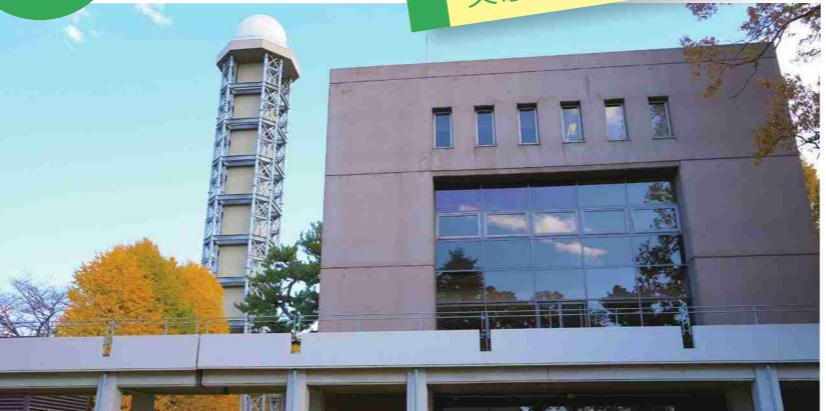


一般教養や基礎・専門科目の授業が行われる教室。情報端末の利用環境も整っています。

### 3F 教室



## 第二校舎



他校では見られない  
実験施設を兼ね備えた校舎

4F	化学実験室、 地球物理実験室
3F	電子計算機演習室、 電子工学実験室
2F	研修教室、 観測研修教室、 工作室
1F	実験室 (物理・流体・ 地震観測・低温)



### 4F 化学実験室

2年生「化学実験」で使用します。大気や湖水試料の化学分析を行います。

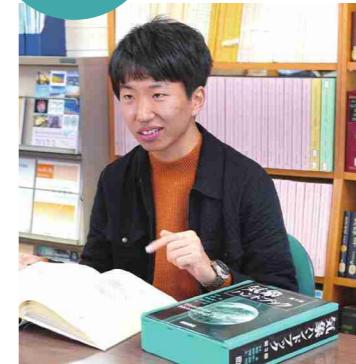


### 1F 流体実験室

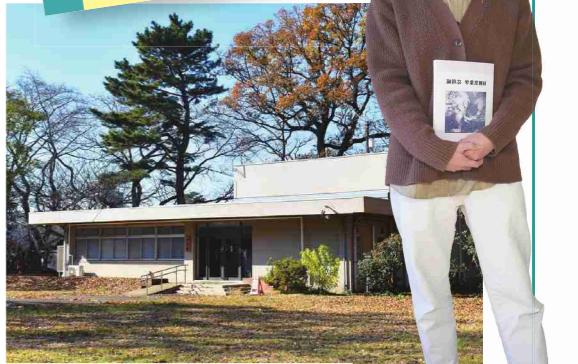
3年生「地球物理学実験」で使用します。大気と海洋の渦や循環の仕組みを学びます。



## 図書館



専門書約34,000冊



## 体育館



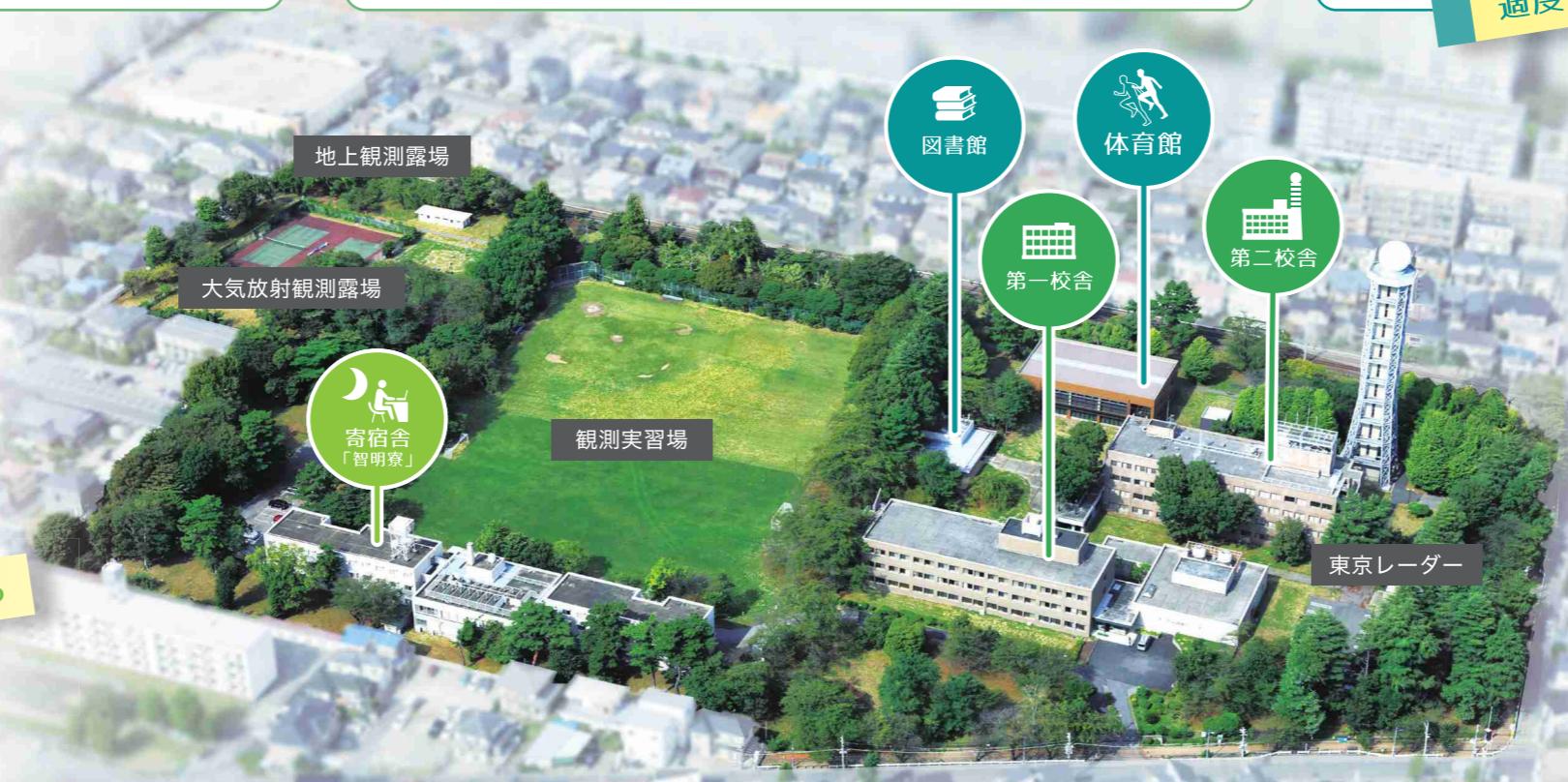
適度な運動で体調管理とリフレッシュ



## 寄宿舎 「智明寮」



志を同じくする仲間と  
共に過ごし、共に成長する



### 図書館



### 体育館



### 第一校舎



### 第二校舎



### 東京レーダー

## その他の施設

- ・観測実習場
- ・地上観測露場
- ・大気放射観測露場



この環境で学ぶ価値は計り知れない

# Curriculum

# 知識を身につけ、能力を養う 4 年間

## 教育方針

将来の気象庁の中核職員として職務遂行に必要な知識と技術を身につける。  
気象業務に関する技術開発や企画・指導に寄与しうる能力を養う。

## 教育課程

教育課程は教養、基礎、専門の 3 系列で構成されています。専門系列の気象、地震火山、地球環境等の分野において、気象業務に密接に関連した専門的な教育を行います。  
※教育課程は大学設置基準に沿ったもので、卒業生には学士(理学)の学位が授与されます。

	1年	2年	3年	4年	
必修科目	教養 英語A・B	基礎 物理数学 線形代数学 数学演習、力学、熱力学 情報処理演習I	物理数学A～C 振動波動論 電磁気学、流体力学 弾性体力学 物理学実験、化学実験 数理統計学 データ解析、化学通論	英語D 情報通信 数値モデル入門	英語E
専門	気象学 地震火山学 地球環境科学 卒業研究	気象学概論 気象基礎演習I 地震火山学概論	気象基礎演習II 気象力学I 大気物理学I・II	気象力学II、大気物理学III 気象観測ネットワーク 地球物理学実験 総觀気象学、メソ気象学I 気象解析予測論I 地震学I、火山学 気候システムI、海洋物理学	メソ気象学II 気象解析予測論II 気象学演習、地震学演習 卒業研究
選択科目	教養 人文科学 社会科学、外国語	基礎 物理数学演習、力学演習	物理数学D、熱力学II 物理学特論 情報処理演習II	電子工学、情報科学実験 情報処理演習III データ解析演習	データベース技法
特修課程	気象業務への知識を深め、防災行政分野をはじめとする幅広い知識を習得します。 気象庁内外で活躍中の講師による講義、職場実習など職務の最前線で働くための実践的な授業です。	気象業務概論 情報リテラシー 気象官署見学 地上気象観測実習	気象防災概論 気象官署見学 火山観測実習	防災行政論 気象庁本庁職場実習	気象業務論、防災社会学 コミュニケーション演習 防災気象業務演習 防災機関見学 地方気象台職場実習 数値予報実習

## 教育を支える教官 ◆専任教官 26 名 ◆非常勤講師 10 数名

Point

60名の学生に対して26名の専任教官が授業を教えます。  
万全のサポート体制が整った環境で学ぶことができます。



**永田 広平 教官** 担当教科 「地震学」ほか

断層運動の力学や地震に伴って生じる地震動・津波について、気象庁が行う地震・津波の監視や情報発表の技術的背景とも結びつながら学ぶ気象大学校ならではの「地震学」を教えています！



**時枝 隆之 教官** 担当教科 「地球化学」ほか

～気象や地震・火山だけじゃない～  
温暖化に伴い地球がどう変化していくのかを正確に予測するためには、地球のことをもっと知る必要があります。気象大学校では、地球を“化学”的な手法で理解する「地球化学」の講義や研究も実施しています。



**北畠 尚子 教官** 担当教科 「気象力学」ほか

未来に何が起こるかをあらかじめ知ることは、通常は困難ですが、天気は物理法則を使って予測することが可能です。物理学の応用である気象力学で、人々の生活や安全に役立つことができます。



**伊藤 享洋 教官** 担当教科 「地球物理学実験」ほか

地球物理学実験では、校内の様々な設備を用いて大気・海洋・地震の諸現象を模した実験を行います。得られたデータを分析し、実際の現象とどのように対応しているかを考察することが重要なポイントです。

# Class 気象大学校だからこそ、魅力ある授業

多彩な講義に加えて、様々な実験や演習。さらには出張による観測実習や、気象庁の天気予報の現場での実習も。

特修課程



山地や湖畔で、気圧・気温・湿度・風を携帯型機器で観測し、自ら体感して得たデータを解析します。観測の原理や機器の取り扱いの基礎を学ぶとともに、気象現象を観測と理論の両面から考察する初めての機会です。合間に、地方気象台や観測施設の見学もします。宿泊実習なので、仲間や教官との距離がぐっと縮まります。



火山において、熱や電磁気観測などを実施し、観測したデータを自ら解析します。また、地震計や監視カメラなどの火山観測施設を見学したり、過去の噴火の災害遺構や堆積物を観察し、実際に火山に触れるにより、教室だけでは分らない“火山”を学びます。宿泊実習なので、活火山の恩恵(温泉)も体験します。



気象庁本庁舎内にある天気予報や地震などの情報を監視・発信する部署での実習は、気象大学校ならでは。普段見ている気象庁からの情報がどのように準備されているのかを実践的に学べます。正確な情報を伝えるには職員が正確な知識を持っていることが必要だと気付かされ、気象大学校での勉強の励みに繋がる貴重な機会です。



1～3名の学生のグループごとに指定された地方気象台を訪問し、予報作業、観測機器の点検、自治体への訪問、お天気フェアなどの防災イベントに携わり、地域に密着した気象業務の最前線を体験します。気象大学校で学んだ知識を活かせ、成長を実感できるだけでなく、将来の仕事のイメージがつかれます。

1年 2年 3年 4年 セミナー

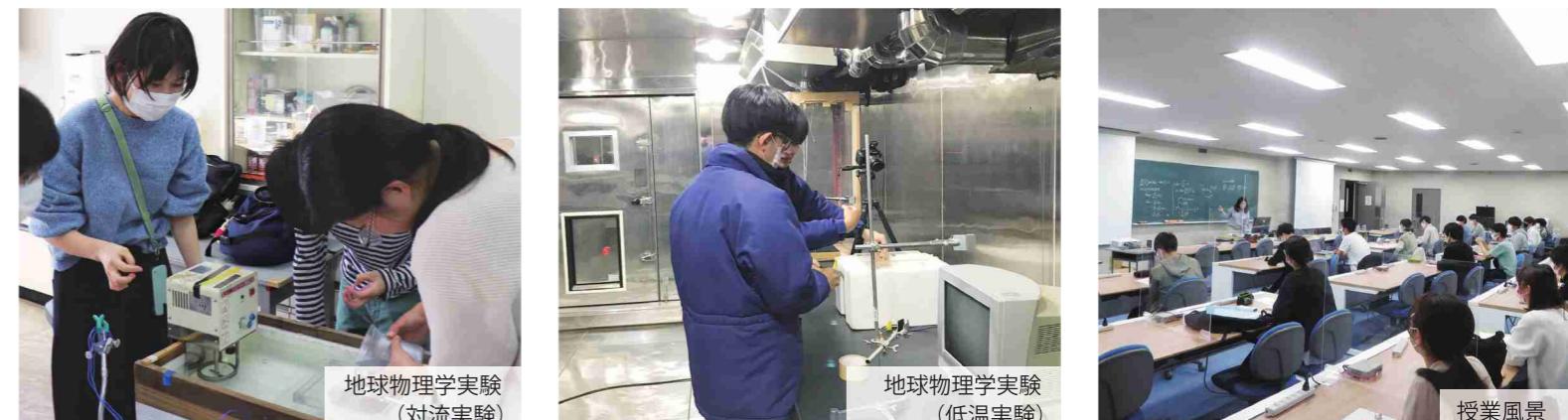
自分のペースで  
学びたいことに向き合えます。  
視野も広がり、理解を  
深められる貴重な時間です。

興味があるテーマを自分で選び、深く学習することができます。気象庁の現場を熟知した多彩な分野の教官の中から、あなたの「もっと知りたい」をサポートする教官を選べます。60名の学生に対して、専任教官26名という贅沢。他ではない1対1の授業も実現します。4年生の卒業研究に向けた準備もできます。

4年 気象学演習

予報や解析の考え方  
高い見識が求められるのは大変ですが、  
現場経験のある教官から  
指導を受けられます。

気象大学校で学んだ気象分野の授業(気象力学・大気物理学・総觀気象学・メソ気象学など)の集大成となる授業です。観測実習・職場実習も経験し、4年間で身に付けたすべての知識を総合的に活用して実際の現象を解析・診断します。全国各地の気象官署で行う天気の監視・予報や数値モデルの改善にも必要となる、現象を解釈する力を持つことができます。





## 実験で理論を可視化するなど 学ぶほど興味が膨らみます

3年生になると実験の授業がたくさんあります。それが楽しい。2年生までは数学や物理の基礎科目、文系の教養などが多かったのですが、3年生になって気象学や地震学、火山学、海洋学といった専門科目が本格的に増えました。講義で学んだ数式や理論が、実験を通して目に見える現象として捉えられるというのはすごく面白いです。

高校で物理が好きになった私にとって、地球物理学を学べる気象大学校は志望校の一つ。選んだ理由として、ここに入ると就職先が決まるということも大きかったです。学生のうちから業務内容がつかめますし。

入学してみるといろんなことに興味が湧きました。教官は現場経験者が多く、天気予報の裏側を知ることができます。気象庁には様々な職務があって、私は今、航空地方気象台の勤務に憧れています。

この大学のメリットは、やはり少人数のところだと感じますね。先生との距離が近く、指導が手厚い。それに学生もみな顔見知りで仲が良く、勉強面でも趣味などの面でも気軽にサポートし合えて、寮生活だから家族のよう。そんなアットホームなところも私には魅力です。



### とある一日

**Before School**

朝食をしっかり取るため授業開始の1時間半前には起きます。お化粧など身支度もきちんとしたいので。

基本的に自炊派。ランチも寮の自室に帰って手軽にできるので便利

**School Time**

1限目：英語D  
2限目：海洋物理学  
3限目：気象観測ネットワーク

**Pickup! この授業に注目!**

4限目：地球物理学実験

実験の授業には気象大学校ならではの実験室や観測装置、露場などが用意されています。地球の自転を再現したり、雪の結晶を作ったり、これから習う対流の実験など興味が尽きません。

**After School**

室内楽のサークルに入ってバイオリンを弾いています。週一で集まって演奏し、その後はみんなでご飯。

気軽に楽しめるサークルが運動系、文化系いろいろそろっています

### とある一日

**Before School**

早起きした日は学校の敷地内を散歩します。桜や銀杏などの緑のほか、ここは霧も出て季節の表情が豊かです。

キャンパスにあふれる自然で心身ともにリフレッシュ！

**School Time**

**Pickup! この授業に注目!**

1限目：気象学演習

演習の授業では計算や計測で得たデータを図に起こし、目で見て判断できるようにします。大気の状態を視覚化して直感的に理解できるようにした2年の時の「気象基礎演習II」は印象深いです。

2限目：データベース技法  
3限目：気象解析予測論II  
4限目：卒業研究

**After School**

他の学生や教官と夕食に行ったり、自転車の同好会で遠出したり、ジムに行って一汗流すこともあります。

楽しみ方は人それぞれ。サークルをたくさん掛け持ちしている人も



## 興味のある学習がすぐ始まり モチベーションが上がる

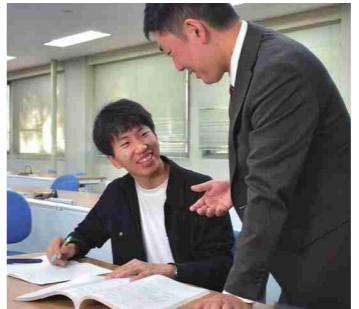
5歳ごろから1年間、アラスカで暮らしていました。空や海が好きになり、それが地球物理学に興味を持つきっかけになったと思います。小学3年生以降の自由研究は自然に関するものばかりでした。

気象大学校を本格的に目指したのは高校生の頃。自分のやりたいことを確実に仕事にできると考えたからです。入学して、これはいいなと感じたのは1年生の時から気象や地震、火山、海洋について学べる点です。関心のあることだからモチベーションが上がります。

それに、僕自身が気象庁職員なので府内のデータやシステムなどを利用して学べます。教官や先輩が身近で支えてくれますし、本校出身の教官も多いので学校行事などのアドバイスももらえます。

授業では職場実習も面白いですよ。3年生は気象庁本庁で、4年生は地方気象台を訪れます。僕が行った所は大雨の直後だったので、災害対応の現場を直接見ることができ、すごく勉強になりました。

業務としては中長期における数値予報の精度向上に貢献したい。将来的には大気や海洋の謎に迫る研究者になりたいと思っています。



# *Life* 充実の日々を 仲間と共に

年間を通じて様々な行事があり、学生が主体的に運営する行事もあります。  
日常生活は寮生活を基本とし、規則正しい生活とチームワークを身に付けます。

## 学校行事

入学式  
前期授業開始



4月

春季体育祭



6月

1年生気象庁本庁授業

オープンキャンパス



7月

4年生地方気象台職場実習

3年生気象庁本庁職場実習



8月

2年生地上気象観測実習・官署見学

1年生火山観測実習・官署見学

後期末試験、卒業研究発表



9月 前期末試験  
10月 後期授業開始  
11月

2月

3月



## 待遇

- 《給与》 入学により、気象庁職員(国家公務員)として採用されます。給与(毎月約17万円)の他、年2回の期末勤勉手当(いわゆるボーナス)等が支給されます。
- 《授業料》 入学金、授業料は必要ありません。但し、教科書代、食費等は自己負担です。
- 《休暇》 一般の国家公務員と同様、1年に20日の年次休暇のほか、特別休暇(夏季休暇、忌引等)があります。
- 《保険》 国土交通省共済組合員として、医療・年金制度等の保障があります。
- 《学位》 卒業時には独立行政法人大学改革支援・学位授与機構より学士(理学)の学位が授与されます。
- 《その他》 寄宿舎を用意しています。(寄宿舎料は無料です)

## 課外活動

野球部、サッカー部、テニス部、  
陸上部、天気の会、軽音楽部、室内楽同好会  
リコーダーアンサンブル部、星をみる会等



## 寮生活

- 《場所》 校舎から徒歩1分。気象大学校の敷地内にあります。
- 《部屋》 各部屋には冷暖房機、ベッド、ロッカー等が備え付けられています。
- 《寮内設備》 自炊施設、浴室、トイレ、洗濯乾燥機室、談話室等があります。
- 《女性用施設》 独立したエリアに部屋、浴室、トイレ、洗濯室があります。

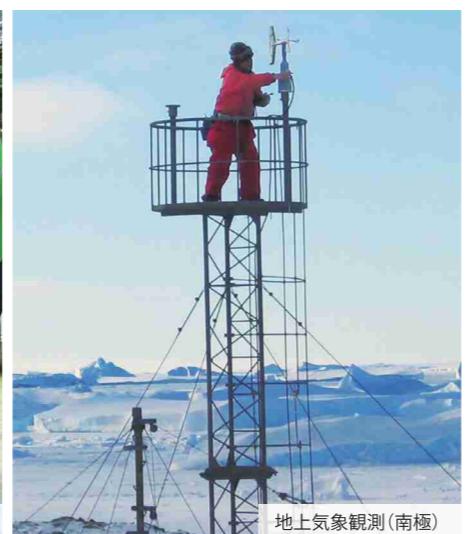
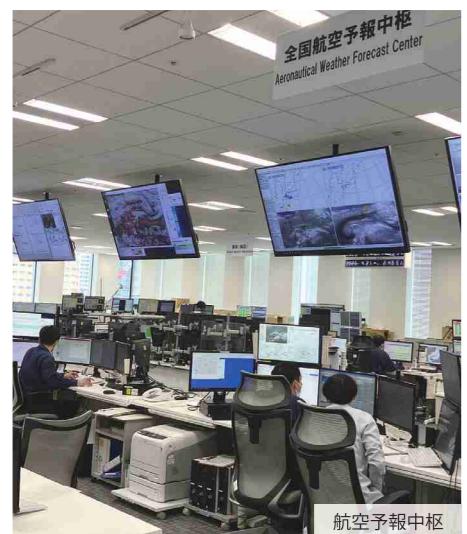
卒業生は、気象庁本庁をはじめ全国各地の官署に配属されます。様々な分野でキャリアを積んだ後には、気象庁本庁等の幹部職員として活躍することが期待されています。

### 官署配置図



### 主な勤務地

気象大学校で4年間学んだ後は、いよいよ気象庁の現場での勤務です。気象庁の勤務先は、北は稚内から南の石垣島まで全ての都道府県にあります。そのため、多くの卒業生は各地方気象台等に配属され、気象、地震・火山、海洋等の観測、予報、防災、調査、技術開発等を行います。その後、本庁、管区気象台等で企画立案、調査研究など、あるいは各省庁や自治体との協議・調整業務を行いながら、ステップアップしていきます。また、世界気象機関(WMO)、南極観測隊、他省庁や自治体に出向して活躍している卒業生もいます。なお、卒業後に人事院の制度等を利用することにより、海外への留学の道も開かれています。



### 卒業生の活躍

予報課 気象監視・警報センター  
現業班 一般職員

### 鳥生 実歩

Toryu Miho

気象大学校での生活は一生の財産となります。  
自然科学に興味のある方、ぜひ実験してみてください!



### 業務に生きる大学での学び

現在は本庁で天気予報業務に従事しています。地方自治体の防災担当者から気象情報の見通しについて問い合わせを受ける時は水戸地方気象台での経験を生かした丁寧な解説を心掛けており、「そういうことが聞きたかった」と言って頂けるとやりがいも感じます。働き始めて4年目、今も大学で学んだ気象力学や総觀気象学の知識をフル活用しています。それほど業務に直結した授業を受けられるのが大きな魅力。気象や地震、海洋等スペシャリスト育成のための幅広い授業が揃っていますから、在学中は教育課程を満遍なく学び、その中から得意なものを持つつくてほしいです。「この分野だったら自分に任せてください」と言えるものを1つ持つと、将来職場でとても重宝されると思います。

仕事とプライベートのバランスが取りやすく、若手から管理職まで女性も活躍していますので、自然科学や物理が好きな女子高生の皆さん、どうぞ安心して来てください。



### 貴重な気づきを得た初任地

2020年に気象大学校を卒業し、最初の配属先は水戸地方気象台の防災グループでした。幅広い業務の中で今に繋がる力になったのは、茨城県の市町村長と気象台長との懇談会への随行です。防災情報に対する様々な意見や要望を出して頂くのですが、土砂崩れや洪水など懸念する災害が地域ごとに異なるほか、雹のような農作物の育成・収穫を左右する気象災害への悩みといった自治体の声を聞くことができ、自分たちが求められていることを直に知る機会になりました。

### 経歴

令和4.4 気象庁 大気海洋部 予報課 気象監視・警報センター 現業班 一般職員  
令和2.4 水戸地方気象台 防災情報係 一般職員

# Messages

## 卒業後の活躍

卒業生から入学をお考えの皆様へのメッセージ

卒業生の活躍

地震火山技術・調査課  
緊急地震速報技術開発係 係長

野口 恵司

Noguchi Keishi

自然災害から命を守るために  
一緒に働きませんか?  
お待ちしています。



卒業生の活躍

企画課  
航空気象管理室 調査官

小松 奈央子

Komatsu Naoko

気象大学校での経験は  
これからあなたの人生を  
豊かにしてくれます。



### 緊急地震速報の業務で貢献

在学中の地震学の授業が面白くて将来の目標が地震業務に定まりました。4歳で阪神淡路大震災を経験した影響もあるのか、自分の興味のあることが人のためにもなればという想いもありました。卒業後の2年間は熊本地方気象台で働き、本庁へ転勤したあと津波関連のWEBアプリ開発業務を経て、今は念願だった緊急地震速報の精度向上のための調査研究をしています。令和5年9月に運用開始した緊急地震速報の技術改善（震源推定手法の改良による揺れの過大予測の低減）は自分でも誇れる仕事です。技術開発は取り組んでいて面白いですし、それが人のためになると思えることは仕事のモチベーションになります。若手の職員も自由にアイディアを提案し、仲間や上司の助言を得ながら実現させることができます。時にそれが社会実装されることもあり、ボトムアップで良いものを作るのはこの職場の魅力だと思います。



### 勉強に明け暮れた大学生活

小学生の頃、台風がきっかけで天気に興味を持ちました。先のことがわかる天気の面白さに目覚め、気象大学校へ進学。待ち受けていたのはみっちりと勉強に打ち込む毎日で、質の高い授業も多く相当鍛えられました。一方で同期や先輩とのつながりも強くなり、今の仕事にも生きています。忘れ難いのは100キロを丸一日かけて歩くハイキング。50キロ以降は1年生と上級生がペアでゴールを目指す習わいで、夜通し歩きながら勉強や学校生活について先輩と話しました。



### 自分の色を見出せた4年間

小学生の時に読んだ科学雑誌の影響で宇宙に興味を持ち、次第に気象へと関心を広げた私は中学3年で気象大学校のことを知りました。気象を専門に学べるユニークな大学ですから、自分の色をつけられるという意味でも面白そうだと進学を志望しました。ここでの4年間は少人数制ゆえに仲間意識が芽生え、周囲の勉強に奮闘する姿に私も頑張ろうと刺激を受ける日々。そして卒業後に実感したのは将来的な職場での人脈を学生時代から築けるというメリットでした。



経歴

令和 4. 4 気象庁 地震火山部 地震火山技術・調査課 緊急地震速報技術開発係 係長  
令和 2.10 気象庁 地震火山部 地震火山技術・調査課 緊急地震速報技術開発係 技術主任  
令和 2. 4 気象庁 地震火山部 地震津波監視課 緊急地震速報技術開発係 技術主任  
平成 30. 4 気象庁 地震火山部 地震津波監視課 緊急地震速報技術開発係 一般職員

経歴

令和 4. 4 人事院の制度を活用し、国内大学院にて研究中  
令和 3. 3 気象庁 総務部 企画課 国際航空気象企画調整官  
平成 31. 4 気象庁 総務部 企画課 国際室 外事官  
平成 28. 4 気象庁 予報部 予報課 航空予報室 調査官

# Messages

## 卒業後の活躍

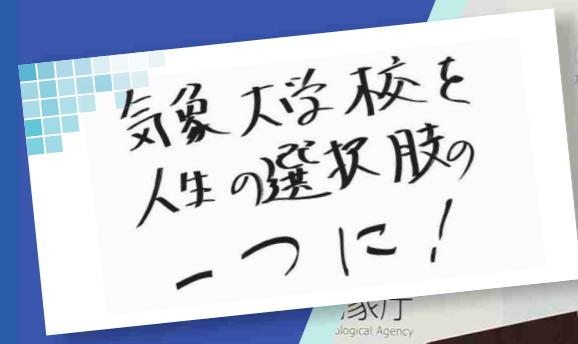
卒業生から入学をお考えの皆様へのメッセージ

卒業生の活躍

福岡管区気象台長

中本 能久

Nakamoto Yoshihisa



### 選択肢が豊かな気象庁の仕事

高校生の皆さんには気象大学校という専門的に理学を学び、卒業後は気象庁で研究者や技術開発者として働くイメージを思い描くかと思いますが、実際の仕事は多岐にわたっています。私が担当してきた業務だけでも気象観測・予報、通信システム構築、法案検討、COP（国連気候変動枠組条約締約国会議）等の国際業務、広報・報道対応など、専門的な仕事から応用性のある仕事まで様々です。そして災害対応のような社会貢献の仕事も多い。ですから気象庁の仕事は、幅広い選択肢があることをぜひ知ってもらいたいです。気象や地震について学びたい人は気象大学校を受験してほしいですし、将来の進路を検討中の人も人生の選択肢を幅広く持つという意味で受けてみることをお勧めします。

職場環境はとても良いです。若い世代も多く、議論が必要とされる場では年齢や役職に関係なく自由に意見が飛び交う。そういう働きやすい風土が気象庁にはあると思います。



経歴

令和 4. 4 福岡管区気象台 台長

令和 3. 4 気象庁 大気海洋部 業務課 課長

令和 2. 4 気象庁 予報部 予報課 課長

平成 31. 4 气象庁 観測部 観測課 課長

卒業生から入学をお考えの皆様へのメッセージ

Join us! ご案内

8月には、気象大学校に興味を持っている学生さんやそのご家族に、気象大学校を紹介するオープンキャンパスを実施しています。

#### ✓ オープンキャンパス

気象大学校を志望する生徒やご家族の方を対象に模擬授業・実験体験・個別相談・寮見学などを実施します。**定員制で予約が必要です。**気象大学校ホームページからお申し込みください。



模擬授業



8月上旬

#### 入学(採用)試験について

気象大学校に入学するためには、人事院が行う気象大学校学生採用試験(高等学校卒業程度の入学試験)に合格し、採用される必要があります。

日程： 8月頃 受験申込の受付 10月末頃 一次試験 12月中旬頃 二次試験

試験科目や今年度の日程の詳細については、以下のホームページで、ご確認ください。

<https://www.mc-jma.go.jp/mcjma/educational/adopt.htm>



気象大学校ホームページにて  
受験体験記を掲載しています  
<https://www.mc-jma.go.jp/mcjma/educational/voice.htm>



#### アクセス

##### 気象大学校

〒277-0852 千葉県柏市旭町 7-4-81

徒歩 15分 (1.2km)  
JR 常磐線・東武アーバンパークライン「柏駅」下車

バス乗り場  
○(1番のりば) / 柏 06・16系統  
免許センター・流山駅東口行  
「気象大学前」停留所下車(正門前)  
○(3番のりば) / 柏 01系統  
豊四季台団地循環  
「住宅入口」停留所下車(徒歩約5分)



最新情報はホームページをご覧ください▶  
<https://www.mc-jma.go.jp>

